

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101659		
法人名	有限会社ゆうしん		
事業所名	グループホームゆうしん水前寺		
所在地	熊本市中央区水前寺5丁目20-5		
自己評価作成日	令和4年11月29日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

可能な限り在宅生活に近い環境を提供する事で、個々の生活歴や趣味が継続して実施出来るように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎えたホームは、建物1階に地域交流室を併設し、「ふれあいを大切に、心温まる豊かな生活を」をコンセプトに運営を開始している。現在閉鎖している交流スペースの活用とともに、コロナ禍における活動の幅を広げたいとしており、生活リハビリの限界を感じ、1階を活用した支援を模索している。今後は法人の理学療法士などと連携した対応が待たれるところである。コロナ禍にあり家族の心配を少しでも緩和できるよう、面会への工夫や管理者やケアマネジャーのリーダシップにより、入居者が穏やかな時間を過ごせるようホーム全体で努力しており、本人・家族の意向を尊重して、医療機関への受診や訪問診療に対応し、家族の安心するところとなっている。最終までを支えるホームとして今後も個々の暮らし方の希望に寄り添った支援に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念「共感・連携・連帯」の精神のもと、理念を共有し実践につなげることが出来るよう取り組んでいる。	建物1階に地域交流室(オレンジカフェ)を併設したホームは、「ふれあいを大切に、心温まる豊かな生活を」をコンセプトに運営を開始し、7年目を迎えている。入居者の入れ替わりがあったものの、職員の移動は少なく、馴染みの関係性が入居者の生活を支えており、法人理念を受け継ぎ地域密着型の事業所としてホーム独自の理念を検討することも今後の課題と思われる。	理念と併せ年目標や月目標といった職員が身近に取り組むべき目標を立てることで、法人理念、「共感・連携・連帯」にも繋がるものとする。検討願いたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域交流の場面は少ないが施設周囲の清掃等で近隣の方との顔が見える関係性を構築している。	近隣住民とともに定期的に施設周辺の清掃活動に参加している。地域交流の拠点であった交流室が現在は稼働しておらず、コロナ感染症終息後の課題として取り組む意向である。管理者は運営推進会議資料を地域包括や民生委員、自治会長など地域の代表者に直接手渡しホームの現状を伝えるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域、施設での交流を図ることで認知症の理解や周知を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(書面による開催)	運営推進会議は現在も「活動報告書」としてホームの運営状況を報告する書面審議としている。入退去の状況や職員異動、アクシデントや研修報告などを行い、通常開催時のメンバーへ直接届け、家族へは定期的に口頭で伝えるようにしている。	関係者に報告書を手渡す際に意見や要望、地域情報を収集したり、直接開催に向け家族の代表者を選出し、会議に参加してもらうような働きかけが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターも参加していただき、事業所の状況を伝えると共に校区内の情報を教えていただくことで情報の共有を図っている。 (書面にて報告)	入居者の認定調査は各居室で行い、職員が状況を伝えながら対応している。運営推進会議が通常開催であれば包括センターから参加があり、ホームの現状や地域情報を共有して意見や提案を受ける事が出来ている。	今回の外部評価結果についても活動報告書とともに各参加者に見てもらい、感想や意見をもらうような対応を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の研修にて身体拘束についての知識を深め、ケアを行う際は職員同士で拘束になっていないかを確認。定期的にカンファレンスなど行っている。	ホーム内研修を毎月実施しており、テレビなどからの事例をもとに話し合ったり、スピーチロックについて管理者が個別の対応について職員に投げかけている。帰宅願望のある入居者の話を聞きながらも、理解が難しい場合には1階に降りて散歩に出たり、ズームで家族と話して安心してもらうなどの対応を取っている。センサーマットを一時的に使用する場合には、プランに入れて家族の了承を得るようにしている。	ユニットが2、3階にあるため、1階の掲示コーナーに“身体拘束の指針”を掲げて来訪者に向けた啓発とされることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の会議を社内全体で開催し情報をフィードバックしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の研修にて権利擁護について理解を深め、ケアの中で実践できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时より丁寧な説明に努めている。後々「聞いていなかった、知らなかった」などの問題が起きないように、十分配慮しながら説明を行っている。説明後はご理解をいただいたうえで契約していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族より要望、苦情、意見を遠慮せずに行っていたりするような関係づくりに努め、意見箱の設置も行っている。いただいた意見は真摯に受け止め、運営に活かせるように取り組み、取り組み内容はお伝えしている。	普段の関わりから入居者の意見や要望を聞き取り、支援に反映している。「散歩をしたい」「化粧品を買ってきて欲しい」など自身の言葉で要望される方もおられる。家族は電話や面会の際に直接話されており、職員が記録に残しながら検討し、対応する事としている。	職員を入居者の担当制としており、月の書類と共に入居者の近況を伝える事で情報発信の機会としたり、今後家族へのアンケートなどにより、要望確認の手段とすることも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課制度を設け面談等を行う事で意見を聞いている。	管理者が年2回の個人面談で職員の要望を聞き取り、週1回行われる法人上司との話し合いの場で声をあげている。また上司の来所時には職員の意見を直接聞く機会も設けられている。	職員が普段から声をあげやすい雰囲気や、意見をまとめる立場として各ユニットにリーダーを配置することも検討したい。連携、連帯を謳う法人理念にも通じるものと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が定期的に事業所を訪れ、職員と交流を図り、意見を言いやすい環境を作っている。また、人事考課制度の導入にて、各職員が向上心やりがいをもって業務に取り組むことができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課の導入により、個別の現状把握・評価、管理者面談、目標設定など半期に1度実施している。また、社内研修や資格取得のための貸付制度も充実しており、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により同じ空間に集まる事はないがタブレット端末等(zoom)などを活用し情報交換を実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心・安全な生活が送れるように不安や困難事項を早期に対応し、入居者様のニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている困りごと、不安、生活に対する意見の相談が気軽にできるように、挨拶や関りを積極的に取り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極め何が必要か、医療機関・他の専門機関等の意見も参考にし、支援サービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを把握し、洗濯物やおしぼりたたみなどできる範囲で職員と一緒に作業を行うことで、共に生活を送っている関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の付き添いなど、ご家族ができる支援をできる範囲で手伝っていただいている。(現在は中止)日常の様子を密に連絡行い、本人を共に支えていく関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人の面会と一緒にゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。(現在は中止)地元出身の方は、近所の知人のお店等訪問し、昔語りができる場を設ける支援を行っている	コロナ禍により家族との面会も1階会議室を利用してパーテーションで区切り直接面会としたり、状況によっては電話やウェブ面会に変更して入居者が家族とのひと時をもてるように対応している。外出も控えている状況であるが、入居者の希望で1階に降りて、近隣の桜を見たりかかりつけ医の受診に職員と徒歩で出かける等、これまでの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時に利用者同士が交流できるよう声掛け行い、相互の関係がうまく関りあえるよう配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に相談していただけるように説明を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活に対する意向の聞き取り、汲み取りを行うように努め、どのような支援が本人が希望するものなのか考え、カンファレンスを行いながら支援している。	職員は普段の生活の中で入居者の思いを引き出すようにしている。「何でもしたい」という願いから台所仕事などの家事に積極的に関わり、生き生きと過ごされる方、自身の日課を決めておられる方など個別の思いを尊重している。意思表示の難しい入居者へはホームでの関わりや反応、家族からの聞き取りから本人・本位となるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活歴を職員で共有し、馴染みの暮らし方や生活環境に近い環境で生活していただけるよう支援している。入居時に馴染みの家具や物品を持参していただく、馴染みの呼び名で名前を呼ぶなど。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録に残し、内容は申し送りにて共有を行う。お一人お一人の状態の把握に努めている。また、その方にあつた生活スタイルを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員でカンファレンスを行い、本人や家族からも情報や意見をもらい、サービス内容を検討し介護計画を作成している。	プランは本人・家族の意向を優先し、職員意見を反映して立案している。家族自身の高齢化に伴い、入居者の病状を按ずる方にはケアマネジャーが医療機関を選択する場合の情報提供を行い、入居者に必要な状態の管理や健康チェックを盛り込んでいる。また車いすを自走する方には行きたい場所の案内や誘導などを入れ、ホーム生活を支えており6か月ごとの見直し時には担当職員が課題を提供して現状に即した内容にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を記録に残し、個別のカンファレンスにおいてケアが現状に即しているか検討を行い実践している。必要な場合は計画の見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者、家族の対応ができるように、アセスメントから必要であることや事業所で対応できることを検討し、ニーズに沿ったサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本社では介護サポーターなどの活用を行っており、存在は把握しているがまだ活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人馴染みのかかりつけ医がいる方はそのまま継続して受診ができるように支援している。希望がない場合は、心身の状態に応じた病院をご紹介します。受診対応の際はDrと意見交換を行い適切な医療が受けられるように努めている。	これまでの医療機関など本人・家族の希望に応じたかかりつけ医を支援している。現在、管理者やケアマネジャーが同行した受診や、訪問診療を受ける方がおられる。受診結果はその都度家族へ報告を行い、質問などを受けている。歯科は2か所の歯科医院から必要時に訪問による治療や口腔ケアが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護にて週1回の健康チェックを実施。また、24時間の連絡相談ができる体制を整えている。健康チェックの際のアドバイスを基に受診の判断などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院への情報提供を行い、連携室との情報共有に努めている。退院時の受け入れについては、病状説明に参加をしケースごとに検討を行っている。長期入院になる際は、一旦退居となる為、家族・病院へ丁寧な説明を行い関係性が崩れないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前意志確認書の取り交わしを行い、重度化した際は本人家族と主治医との話し合いの場を設け、今後の病状の理解、事業所での看取りの説明を相互に確認できるように努め、共通理解、方針の共有を行っている。また、主治医、訪問看護と連携し支援を行っている。	主治医、訪問看護との連携を図りながら重度化・終末期支援を行っている。入居時に事前指定書を交わしており、そのような状態になったら再度、話し合いの機会を持ち、家族の気持ちを聞きながら方向性について確認している。ケアマネジャーは、看取りは日々の積み重ねであり、信頼関係の重要性を語っている。	今後も日頃の関わりを大切にしながら、ホームに出来得る最終の支援に努めていられる事を期待したい。また、終末期支援に関する定期的な研修会の開催に期待したい。看取り支援後に行われる振り返りの中で出された職員の意見などを組み入れた研修会なども今後につながると思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修やミーティングの際にAEDの取り扱い、急変時の対応方法の周知、職員への指導を行っている。また、緊急マニュアルを作成し職員が再確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の避難訓練を年2回実施。社内研修やマニュアルを作成し職員が再確認できるように手に取りやすい場所に置いている。防火のための安全点検は毎日行っている。運営推進会議の際避難場所の確認を行う。	今年度は6月に昼間想定消防避難訓練を実施し、12月にも昼間想定訓練を予定している。災害備蓄はリストをパソコン上で管理しているが、自然災害を想定した訓練の実施には至っていない。	昨今の自然災害は想定を超えるものであり、火災訓練と併せて自然災害を想定した訓練の実現が期待される。また、避難訓練を行う際、防災業者などに参加を依頼し、アドバイスを受ける事も良いと思われる。検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて、虐待防止、プライバシー保護、接遇について学び、利用者の尊厳と誇りを損ねない様敬語、丁寧語を基本とした言葉かけができるように職員へ周知、指導を行っている。各事業所で接遇目標を掲げており、毎朝の申し送り時に全員で唱和を行っている。	接遇を含め、入居者のプライバシーや尊厳に配慮した支援について研修会の中で周知を図る他、接遇目標を掲げ申し送りの中で唱和や振り返りを行っている。呼称は基本的に苗字にさん付けとしているが、本人の希望で下の名前前で対応する時は家族の了承を得ている。今年度は利用者の目線に合わせて会話をすることを目標に掲げている。	居室に入る際は在室の有無に関わらず、ノックの徹底など今一度共有の機会を持たれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の性格の把握に努め、本人の思い、希望をくみ取り、代弁できる関係性を構築できるように努めている。また、自己決定の促しを行うことで些細なことでも自己決定の機会が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同じ一日の流れでも、お一人お一人の生活のペースを大切にし、その都度お声掛けし希望に沿った暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類が切れるように助言、配慮を行っている。男性は朝から髭剃りを行っていただくよう声掛けを行い、女性は髪をとかすなどの身だしなみに気をつけた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で、食事の嗜好などを聞き取りおいしく食べていただけるよう支援している。	人員配置などの面から現在は、昼・夜は調理済みの料理を活用しており、入居者の嚙下力に応じてキザミやミキサー食で提供している。調理専任者が配置され、洗い物や手作りおやつを担当している。入居者が調理に関わる機会は持たれていないが、いちごを洗って器に分ける等手伝われている。その際、数が揃わない時は職員がそっとサポートに回っている。現在、味や量の確認を兼ねた検食者などは持たれておらず、職員は持参した弁当を時間をずらして摂っている。	今後は定期的にクッキングの日など、入居者と職員が食を楽しめるイベントを企画することも良いと思われる。職員のアイデアや工夫に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の考えた献立を提供することで、栄養のバランスに配慮し、食事形態も適宜本人の状態にあったものを検討し提供している。また、水分摂取の困難な方は、水分ゼリーを提供し脱水を起こさない様に努めている。現在は人員不足の為昼・夕食は配食業者に依頼中		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状況に応じて毎食後ケアの介助を行っている。また、必要に応じて家族と相談の上訪問歯科導入などを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立にて排泄出来る方の見守りと介助が必要な方の排泄パターンの把握を行い、個々の能力に応じた排泄援助を行う事で、出来るだけ自立に向けた支援を行っています。	リハビリパンツにパットを併用される方が殆どであるが、テープ式オムツや布パンツで過ごされる方もおられる。日中はトイレでの排泄を基本としているが、ポータブルトイレを使用される方もおられ、使用しない間はクロスを掛ける等プライバシーに配慮している。排泄用品は適切なものを職員間で検討し、ホームで準備しているが、訪問を兼ねて家族が持参されることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っています。排便が困難な方へは多めの水分摂取、ヨーグルトの提供を行い、自然なお通じがあるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に沿い入浴を行い、個々の状況により入浴が困難な方へは、清拭にて清潔を保っていただけるよう支援を行っている。	可能な限り本人の希望に沿うような入浴を週2回支援し、汚染時はその都度対応し不快なく過ごせるようにしている。2階は一般浴、3階には機械浴が設けられており、身体状況に応じた使用が可能である。拒否がある場合には、職員を交代するなど個々に応じて無理なく入ってもらえるようにしている。また、冬場は特に脱衣所や浴室が肌寒いと、拒まれる方もあり、温めて入ってもらっている。	入浴中に家族や以前の仕事の話がされる方もおられるなど、入浴がほっとする時間であることが窺える。今後も寛ぎや楽しみな時間となるよう職員の声掛けや配慮に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれる様に、状況に応じた衣類・室温調整を行い安息を知って頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局に居宅療養管理指導で入っていたり、薬の知識、内容の把握に努めている。また、誤薬飲ませ忘れなど事故防止のため、職員2名での確認を行い、服薬支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれの身体レベルに応じた、洗濯物たたみ、新聞たたみ、おしぼりやエプロンの準備などの作業を依頼し、役割を担っていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の病院への受診の際は、車での移動ではなく車いすでの移動を行い、外気に触れ散歩を楽しんでいただいている。個別に近所を散歩する機会を支援している。	以前のように地域でのイベント見学や行きつけの近隣商店での買い物などは難しい状況であり、玄関先での日光浴や受診が外出の機会となっている。また、散歩をしながら桜を眺めた際は、入居者も大変喜ばれたようである。少しコロナが落ち着いた時には、「今しかない！」と、ホームも家族の思いを後押しし、墓参りや仏壇まいりをされた方もおられる。	感染症の終息が見えない事から、外出に代わるホーム内での楽しみ事を工夫されることを期待したい。また、努めて散歩や外気に触れる機会を支援いただきたい。テレビやビデオ、チューブなどを活用し、全国や世界の花の開花、名所めぐりを楽しむことも良いと思われる。様々な取組は家族へ発信し、安心に繋げていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本的に職員で対応している。コロナにより外出は自粛中。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者・家族の意向に沿っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける装飾や温度・湿度管理を行う事で過ごしやすい空間を提供。	リビングをはじめ共用空間は感染症への対応から掃除や換気、消毒や温湿度管理を徹底している。ユニットは2階・3階に配置され双方の職員が、入居者と一緒に季節ごとの壁面を作成し、掲示している。テレビの視聴、入居者同士や職員との会話など、その時々で寛げる場所を確保しており、リビングの席は身体状況や相性などを考慮して決定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの視聴やご利用者同士の会話ができるようにお好きな場所に座っていただき、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活に出来るだけ近い環境で過ごして頂く為に在宅で使用されていた家具やコップ、TVを持ってきてもらい自宅に近い環境作りに努めている。	これまでの生活環境が継続できるよう、自宅で使用していたもの(家具・器・衣類他)の持ち込みを依頼している。心の拠り所となる仏壇や家族の写真が置かれた居室もある。感染症への対応から共用空間同様換気に努め、室内の掃除は夜勤者が中心に行っている。	面会を控えている家族にとって整頓や衣類の管理を含め、居室内の様子は気になる点と思われる。今後は家族の安心に繋がる情報発信が必要と思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置などわかりやすいように目印を作成し見当識への支援も行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101659		
法人名	有限会社ゆうしん		
事業所名	グループホームゆうしん水前寺(3F)		
所在地	熊本市中央区水前寺5丁目20-5		
自己評価作成日	令和4年11月29日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

可能な限り在宅生活に近い環境を提供する事で、個々の生活歴や趣味が継続して実施出来るように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念「共感・連携・連帯」の精神のもと、理念を共有し実践につなげることが出来るよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域交流の場面は少ないが施設周囲の清掃等で近隣の方との顔が見える関係性を構築している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域、施設での交流を図ることで認知症の理解や周知を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(書面による開催)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターも参加していただき、事業所の状況を伝えると共に校区内の情報を教えていただくことで情報の共有を図っている。(書面にて報告)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の研修にて身体拘束についての知識を深め、ケアを行う際は職員同士で拘束になっていないかを確認。定期的カンファレンスなど行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の会議を社内全体で開催し情報をフィードバックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の研修にて権利擁護について理解を深め、ケアの中で実践できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より丁寧な説明に努めている。後々「聞いていなかった、知らなかった」などの問題が起きないように、十分配慮しながら説明を行っている。説明後はご理解をいただいたうえで契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族より要望、苦情、意見を遠慮せずに行っていたりするような関係づくりに努め、意見箱の設置も行っている。いただいた意見は真摯に受け止め、運営に活かせるように取り組み、取り組み内容はお伝えしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課制度を設け面談等を行う事で意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が定期的に事業所を訪れ、職員と交流を図り、意見を言いやすい環境を作っている。また、人事考課制度の導入にて、各職員が向上心やりがいをもって業務に取り組むことができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課の導入により、個別の現状把握・評価、管理者面談、目標設定など半期に1度実施している。また、社内研修や資格取得のための貸付制度も充実しており、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により同じ空間に集まる事はないがタブレット端末等(zoom)などを活用し情報交換を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心・安全な生活が送れるように不安や困難事項を早期に対応し、入居者様のニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている困りごと、不安、生活に対する意見の相談が気軽にできるように、挨拶や関りを積極的に取り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極め何が必要か、医療機関・他の専門機関等の意見も参考にし、支援サービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを把握し、洗濯物やおしぼりたたみなどできる範囲で職員と一緒に作業を行うことで、共に生活を送っている関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の付き添いなど、ご家族ができる支援をできる範囲で手伝っていただいている。(現在は中止中)日常の様子を密に連絡行い、本人を共に支えていく関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人の面会と一緒にゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。(現在は中止)地元出身の方は、近所の知人のお店等訪問し、昔語りができる場を設ける支援を行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時に利用者同士が交流できるよう声掛け行い、相互の関係がうまく関りあえるよう配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に相談していただけるように説明を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活に対する意向の聞き取り、汲み取りを行うように努め、どのような支援が本人が希望するものなのか考え、カンファレンスを行いながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活歴を職員で共有し、馴染みの暮らし方や生活環境に近い環境で生活していただけるよう支援している。入居時に馴染みの家具や物品を持参していただく、馴染みの呼び名で名前を呼ぶなど。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録に残し、内容は申し送りにて共有を行う。お一人お一人の状態の把握に努めている。また、その方にあった生活スタイルを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員でカンファレンスを行い、本人や家族からも情報や意見をもらい、サービス内容を検討し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を記録に残し、個別のカンファレンスにおいてケアが現状に即しているか検討を行い実践している。必要な場合は計画の見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者、家族の対応ができるように、アセスメントから必要であることや事業所で対応できることを検討し、ニーズに沿ったサービスが提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本社では介護サポーターなどの活用を行っており、存在は把握しているがまだ活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人馴染みのかかりつけ医がいる方はそのまま継続して受診ができるように支援している。希望がない場合は、心身の状態に応じた病院をご紹介し、受診対応の際はDrと意見交換を行い適切な医療が受けられるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護にて週1回の健康チェックを実施。また、24時間の連絡相談ができる体制を整えている。健康チェックの際のアドバイスを基に受診の判断などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院への情報提供を行い、連携室との情報共有に努めている。退院時の受け入れについては、病状説明に参加をし、ケースごとに検討を行っている。長期入院になる際は、一旦退居となる為、家族・病院へ丁寧な説明を行い関係性が崩れないよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前意志確認書の取り交わしを行い、重度化した際は本人家族と主治医との話し合いの場を設け、今後の病状の理解、事業所での看取りの説明を相互に確認できるように努め、共通理解、方針の共有を行っている。また、主治医、訪問看護と連携し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修やミーティングの際にAEDの取り扱い、急変時の対応方法の周知、職員への指導を行っている。また、緊急マニュアルを作成し職員が再確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の避難訓練を年2回実施。社内研修やマニュアルを作成し職員が再確認できるように手に取りやすい場所に置いている。防火のための安全点検は毎日行っている。運営推進会議の際避難場所の確認行う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて、虐待防止、プライバシー保護、接遇について学び、利用者の尊厳と誇りを損ねない様敬語、丁寧語を基本とした言葉かけができるように職員へ周知、指導を行っている。各事業所で接遇目標を掲げており、毎朝の申し送り時に全員で唱和を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の性格の把握に努め、本人の思い、希望をくみ取り、代弁できる関係性を構築できるように努めている。また、自己決定の促しを行うことで些細なことでも自己決定の機会が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同一日の流れでも、お一人お一人の生活のペースを大切に、その都度お声掛けし希望に沿った暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類が切れるように助言、配慮を行っている。男性は朝から髭剃りを行っていただくよう声掛けを行い、女性は髪をとかすなどの身だしなみに気をつけた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で、食事の嗜好などを聞き取りおいしく食べていただけるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の考えた献立を提供することで、栄養のバランスに配慮し、食事形態も適宜本人の状態にあったものを検討し提供している。また、水分摂取の困難な方は、水分ゼリーを提供し脱水を起こさない様に努めている。現在は人員不足の為昼・夕食は配食業者に依頼中		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状況に応じて毎食後ケアの介助を行っている。また、必要に応じて家族と相談の上訪問歯科導入などを検討している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立にて排泄出来る方の見守りと介助が必要な方の排泄パターンの把握を行い、個々の能力に応じた排泄援助を行う事で、出来るだけ自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っています。排便が困難な方へは多めの水分摂取、ヨーグルトの提供を行い、自然なお通じがあるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に沿い入浴を行い、個々の状況により入浴が困難な方へは、清拭にて清潔を保っていただけるよう支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれる様に、状況に応じた衣類・室温調整を行い安息を知って頂けるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局に居宅療養管理指導で入っていただき、薬の知識、内容の把握に努めている。また、誤薬飲ませ忘れなど事故防止のため、職員2名での確認を行い、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれの身体レベルに応じた、洗濯物たたみ、新聞たたみ、おしぼりやエプロンの準備などの作業を依頼し、役割を担っていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の病院への受診の際は、車での移動ではなく車いすでの移動を行い、外気に触れ散歩を楽しんでいただいている。個別に近所を散歩する機会を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本的に職員で対応している。コロナにより外出は自粛中。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者・家族の意向に沿っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける装飾や温度・湿度管理を行う事で過ごしやすい空間を提供。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの視聴やご利用者同士の会話ができるようにお好きな場所に座っていただき、思い思いに過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活に出来るだけ近い環境で過ごして頂く為に在宅で使用されていた家具やコップ、TVを持ってきてもらい自宅に近い環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置などわかりやすいように目印を作成し見当識への支援も行っている。		